

『6次産業化中央サポートセンター』開設

“中央”である意義とは。
各都道府県のサポートセンターと連携し、
新たな6次産業の未来を見据える。

〳〵中央〴〵である意義とは、
これまでとの違いとは

9月上旬、『6次産業化中央サポートセンター（以下・中央サポートセンター）』が開設された。

これまで各都道府県ごとに『6次産業化サポートセンター（以下・サポートセンター）』が設置され、商品開発や販路開拓に関する民間の専門家を「6次産業化プランナー（以下・プランナー）」として農林漁業者の6次産業化の取組に対する支援を行ってきた。この仕組みがさらに充実されることになる。

事業責任者の大慈弥晶土さんにお話を聞いた。

「簡単に言うと、地域段階のサポート体制に加え、全国的な視点からのサポートを新たに行うということです。新しくプランナーも募集します。各都道府県のサポートセンターがあり、中央サポートセンターはその取組をさらに広げていくような位置づけになります。」

広げる、とは具体的には「たとえば輸出の話や、県をまたいだ都市間の流通・物流。従来のサポートセンターにもプロの方はいますが、それを越えてサポートする体制を整えたいと思っています。」

すべて中央からの派遣ではなく、

ある地域のプランナーの能力や知識が、別の地域で役立つと判断すれば、派遣することも行うという。中央サポートセンターは全国を俯瞰し、全国の案件や様々な事業に対して担当していくことになる。都道府県ごとのサポートセンターの上部組織ではないのだ。

「中央のサポートセンターのプランナーと各都道府県ごとのプランナーは別立てです。中央サポートセンターの下部組織として、各地域のサポートセンターがある、ということではありません。両方パラレルで動いていくつもりです。都道府県ごとのサポートセンターとの連携はもちろん、都道府県、地方農政局をはじめとする関係機関とも連携し、新しい支援体制を構築していく考えです。」

新たなプランナーたちは

より専門化された精鋭集団

今後「プランナー」となる者には、これまで以上に専門的な知識が求められることになるだろう。

「今回の枠組では、精鋭を束ねた組織を作ろうとしています。」

現在、中央サポートセンターでは、

改めてプランナーを募っている。農林漁業に関する専門的な知識や、それを踏まえた上での経営への視点を持った、まさにプロフェッショナルを集めようとしている。

これがうまく機能すれば、事業者によりきめ細かな支援が可能になる、と大慈弥さんは、力説する。

「川上から川下までを中央のサポートセンターがプロデュースしてオーガナイズしてキャスティングして。安全、品質管理、製造工程、加工から物流、市場なのか業務用卸なのか……あらゆる分野のプロの声を聞きながら、事業者にあった形で事業を組み立てていく。6次産業化すればそれでいいわけではなく、作ったものがどの程度売れるかが重要なんです。だから2次・3次の事業者との連携を深めて、より売れる商品を作って、より売れる形で流通させる。食品ならば、今は、某有名スーパーの棚に置くことが至上命題のようになっていますが、そうではなく、その商品がより売れる別のチャネルもあるはずなんです。そういうところまで見極められるプランナーを配置して、できることなら世界にまで広がってほしい。それが中央サポートセンターでやりたいところです。」



編集後記

本号取材先、大西ファームの事業支援を行っている五日市さんと直接お会いする機会を得た。某県での商品開発セミナーで、大西ファームの取り組みを紹介しながら、素材の活かし方、消費者への伝え方、販路へのつなぎ方など実践的で説得力のある内容に聞き入った。講演後、6次産業化への思いなど改めてご意見をお聞きしたが、認定に向けて事業者が自らの事業を客観的に見ることができることは大変重要であるという指摘と、記事にもあるが、補助金ありきの姿勢は結果的に何ももたらさないという批評に、これまで見てきた多くの事例を振り返りながら頷いた。

6次産業化は地域内の新しい事業連携を促す。技術や人材、情報をうまく繋ぎながら付加価値を生み出し高めていく過程では、設備投資という負荷を背負う前に、できることが沢山あるのではないか。地域ぐるみで生み出される思いのこもった商品づくりの手順を改めて認識することができた。

編集長 奥野 俊志

6次産業化フリーペーパー
「第6チャンネル」 Vol.07 (2013年10月発行)

編集人：奥野俊志

編集：河原木徹、高野裕子、菅野康子

取材：浦岡伸行、武田篤典、高野裕子、菅野康子

デザイン：安野真由美

制作協力：平成ソフト

発行：株式会社アール・ピー・アイ

〒101-0061

東京都千代田区三崎町3-1-16

神田アメリックスビル8階

TEL: 03-5212-3411

<http://www.rpi.co.jp>

※この情報誌およびWebサイト「第6チャンネル」www.6-ch.jpは、農林水産省6次産業化情報提供支援事業により制作・運営しています。

©RPI 本誌記事の無断転載を固く禁じます。



大慈弥 晶土 (おおじみ まさと) さん

6次産業化中央サポートセンター 事業責任者

売れるものを作る。
なにはともあれ、まず相談を
行うという。

今後、積極的に事業者のサポートを行うという。「〃ともかく補助を求めざる事業者」という図式から、国がお金を出したくなる事業者へへと転換していきたい。そんな事業者をつくるのが私たちの役割だと考えています。有望な事業者には銀行もお金を貸したくなります。1次産業事業者への貸金が少なかったということがありますが、少しずつ変わってきており、事業を理解し、農家に足を運んで膝つき合わせて話をする銀行員が増えています。私たちは、そういう人たちと

仕事をし、ファンドも組んでいこうと。私たちが、売れるようにする〃活動を続けていけば、6次産業化事業の案件もこれまでよりも理解されやすくはならずです。」

専門的知識と経験を持ったプランナーを集め、事業者とのマッチングを行う。6次産業化・地産地消法に基づく認定だけでなく、それ以降の事業を総合的にサポートしていく。キーワードは(少々生々しいけれど)「売ってナンボ」。ファンドという新しい武器も生まれ、中央サポートセンターは6次産業化について実を伴ったものとして推進していく。

「まず相談してください。具体性はなくても構いません。アイデアが出たときにとりあえず問い合わせてください。そうすればいろんなところでそのアイデアを投げられるし、お金を使って作りこむ前に、簡単なリトマス試験にかけることもできます。普通の主婦に聞いたり、バイヤーに聞いたり、丸の内のOLに聞いたり。コンサルタントからマーケティングの難しい言葉をもらったり、町を歩いているお母さんたち、お姉さんたちが一番のお客さんだから。たったそれだけでも、全然違います。だから作りこむ前に相談してください。……できれば事前に1本お電話を。」

6次産業化中央サポートセンター(株式会社農林漁業成長産業化支援機構)
問い合わせ/ TEL:03-6269-9780 Email:contact@6sapo-center.net
<http://www.6sapo-center.net/>